

## 令和4年度 政策評価書（事前の事業評価）要旨

担当部局等名：防衛装備庁技術戦略部技術計画官

評価実施時期：令和4年11月～令和4年12月

事業名	ミサイルシステム HGV対処用誘導弾システムの研究	政策体系上の位置付け
		技術基盤の強化
事業の概要等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 事業の概要 マッハ5を超える極超音速で、高高度領域を高い機動性を維持しながら飛来するHGV（※）脅威に対処するため、将来の総合ミサイル防空システムに必要な機能を有するHGV対処用誘導弾システム技術を確立する。 ※ HGV（Hypersonic Glide Vehicle）：極超音速滑空兵器</li> <li>○ 総事業費（予定） 約2,439億円（研究試作総経費）</li> <li>○ 実施期間 令和5年度から令和13年度まで研究試作を実施する。また、本事業成果と合わせて、令和8年度、令和9年度及び令和11年度から令和13年度まで所内試験を実施し、その成果を検証する（所内試験のための試験研究費は別途計上する。）。</li> <li>○ 達成すべき目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 高速・長射程飛しょう技術の確立</li> <li>イ 高高度領域高応答飛しょう技術の確立</li> <li>ウ ネットワーク交戦技術の確立</li> </ul> </li> </ul>	
政策評価の観点及び分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 必要性 HGV脅威から我が国全土を防護するため、高速・長射程飛しょう機能等により遠方での迎撃機会の増加を図り、脅威への確実な対処を可能とするHGV対処用誘導弾システム技術を確立する必要がある。</li> <li>○ 効率性 先行研試の研究成果を活用することにより、研究期間の短縮及びコストの低減を図る。また、各種センサ等の外部システムとの接続を考慮し汎用インタフェースを用いることで、既存装備品及び将来の装備品に対する拡張性を確保する。</li> <li>○ 有効性 ネットワーク交戦機能により、各種センサ等から収集した情報を基に効果的な射撃計画の立案が可能となる。また、高速・長射程飛しょう機能及び高高度領域高応答飛しょう機能により、遠方でHGV脅威を迎撃することが可能となる。</li> <li>○ 費用及び効果 本事業の実施にあたっては、先行研試の研究成果を活用することにより、研究期間の短縮及びコストの抑制に努める。 また、本事業の成果により、HGV脅威への対処能力向上が見込まれる。</li> </ul>	
総合的評価	<p>本事業を実施することにより、上記達成すべき目標で述べた各種技術の確立が見込まれる。これらの成果については、研究試作及び所内試験により検証し、これらの検証結果が得られた場合には、技術競争の激しいこの分野での技術的優越の確保を図ることができ、その結果、我が国の技術力の強化に資することが見込まれる。これらは自衛隊のニーズに合致した高度な防衛装備品を創製するため極めて重要な成果であり、最終的に政策目標である防衛力の能力発揮のための基盤の確立につながるものであると評価できる。</p> <p>以上の点から、本事業は平成31年度以降に係る防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画（平成31年度～平成35年度）に記載された技術</p>	

	基盤の強化に資する研究であり、また、政策体系上の位置付けも一致しており、いずれの政策評価の観点からも本研究に着手することは妥当であると判断する。
有識者意見	当該事業に係る必要性等について異論はないが、当該事業は、危急の課題であり重要であることから、研究・開発の更なる効率化に向けた検討を行いつつ進める必要があると考える。
政策等への反映の方向性	総合的評価を踏まえ、令和5年度予算要求を実施する。